

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成25年5月2日 (2013.5.2)

【公表番号】特表2009-525246(P2009-525246A)

【公表日】平成21年7月9日 (2009.7.9)

【年通号数】公開・登録公報2009-027

【出願番号】特願2008-552790(P2008-552790)

【国際特許分類】

C 0 1 G 23/053 (2006.01)

B 8 2 B 3/00 (2006.01)

B 8 2 B 1/00 (2006.01)

B 0 1 J 35/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/29 (2006.01)

A 6 1 Q 17/04 (2006.01)

A 6 1 K 8/39 (2006.01)

A 6 1 K 8/04 (2006.01)

B 0 1 J 13/00 (2006.01)

【F I】

C 0 1 G 23/053

B 8 2 B 3/00

B 8 2 B 1/00

B 0 1 J 35/02 J

A 6 1 K 8/29

A 6 1 Q 17/04

A 6 1 K 8/39

A 6 1 K 8/04

B 0 1 J 13/00 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年3月11日 (2013.3.11)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

チタンアルコキシドを、ハロゲン酸及び非イオン界面活性剤の存在下、水中で、45℃
～55℃の温度にて加熱することにより反応させることを特徴とする鋭錐石形態のTiO
2のナノ粒子分散体の製造方法。

【請求項 2】

前記チタンアルコキシドが、チタンメトキシド、エトキシド、ノルマルプロポキシド、
 イソプロポキシド、ノルマルブトキシド及びイソブトキシドから成る一群から選択される
 ことを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記チタンアルコキシドが、チタンイソプロポキシドであることを特徴とする請求項 2
 記載の方法。

【請求項 4】

前記ハロゲン酸がHCLであることを特徴とする請求項 1記載の方法。

【請求項 5】

前記非イオン界面活性剤がエーテル又はエステル型の極性機能をもつことを特徴とする請求項 1～4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

非イオン界面活性剤／ハロゲン酸のモル比が 0.005～15であることを特徴とする請求項 1～5 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

非イオン界面活性剤／ハロゲン酸のモル比が 5～6であることを特徴とする請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】

反応時間が 24 時間であることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 9】

チタンアルコキシド、ハロゲン酸及び非イオン界面活性剤を含む溶液に Ag、又は Cu 又は Ce の金属塩が添加されることを特徴とする請求項 1～8 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

請求項 1～9 のいずれか一項に記載の方法を用いて得ることのできる水中における鋭錐石形態の TiO_2 のナノ粒子分散体。

【請求項 11】

請求項 9 に記載の方法を用いて得ることのできる、一連の遷移金属から選択した金属で Ti がドーピングされたことを特徴とする水中における鋭錐石形態の TiO_2 のナノ粒子分散体。

【請求項 12】

前記遷移金属が、Ag、Cu 及び Ce から成る群から選択される請求項 11 記載の TiO_2 のナノ粒子分散体。

【請求項 13】

処理を必要とする表面に光触媒コーティングを施すための請求項 10～12 のいずれか一項に記載の TiO_2 のナノ粒子分散体の使用。

【請求項 14】

前記表面が、編織布、金属、セラミック及びエナメル製品の表面の中から選択される請求項 13 記載の TiO_2 のナノ粒子分散体の使用。

【請求項 15】

気体及び液体の光触媒による汚染除去のための請求項 10～12 のいずれか一項に記載の TiO_2 のナノ粒子分散体の使用。

【請求項 16】

太陽光線に対して人の皮膚を保護する化粧品を作るための請求項 10～12 のいずれか一項に記載の TiO_2 のナノ粒子分散体の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0002

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0002】

二酸化チタンは、特に塗料、並びに紙及び合成ゴムの製造に用いられる被覆能力が非常に強い白色顔料である。二酸化チタンのごく最近の応用のうち、光触媒活性度を最も効果的に用いることが試みられており、言い換えれば、紫外線の働きを通して、ベンゼン、ダイオキシン及びその他の有機汚染物のような有害又は有毒な物質、及びまたカビやバクテリアのような不快でしかも病気を引き起こす物質を酸化分解する触媒作用を可能とするラジカル種を発生するという特性を利用するものである。従ってこれらの応用は、汚染物質との戦いから洗剤及び滅菌製品に及ぶ広い環境分野において用いられる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

非イオン界面活性剤は、非イオン化エーテル、エステル、エーテル－エステルのような非極性部と極性機能部とから成る表面活性剤であり、特に好ましいのはトリトン X－100 (TX－100) (商標) である。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

[実施例 1]

5 グラムの濃 HCl と、7.5 グラムの TX－100 と、総重量 750 グラムまでの水とを、外部ジャケットに循環する非断熱性油によって加熱した 2 リットルの反応器に入れた。温度を 50 °C に上昇させた。この時点で、50 グラムの Ti [OCH (CH₃)₂]₄ (TIP) を素早く添加すると、直ちに白色羊毛状の沈殿を見ることができた。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0029

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0029】

[実施例 2]

5 グラムの濃 HCl と、7.5 グラムの TX－100 と、総重量 750 グラムまでの水とを、外部ジャケットに循環する非断熱性油によって加熱した 2 リットルの反応器に入れた。温度を 50 °C に上昇させた。この時点で、50 グラムの TIP を素早く添加すると、直ちに白色羊毛状の沈殿を見ることができた。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

[実施例 4]

5 グラムの濃 HCl と、1.0 グラムの TX－100 と、総重量 936 グラムまでの水とを、外部ジャケットに循環する非断熱性油によって加熱した 2 リットルの反応器に入れた。温度を 50 °C に上昇させた。この時点で、64 グラムの TIP を素早く添加すると、直ちに白色羊毛状の沈殿を見ることができた。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0038

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0038】

[実施例 5]

5 グラムの濃 HCl と、総重量 936 グラムまでの水とを、外部ジャケットに循環する

非断熱性油によって加熱した２リットルの反応器に入れた。温度を５０℃に上昇させた。この時点で、６４グラムのＴＩＰを素早く添加すると、直ちに白色羊毛状の沈殿を見ることができた。